

事務事業チェックシート

事務事業No 756 事業名 特別依頼収集事業

[長期総合計画]

分野別目標	2	住みたいと選ばれる魅力があふれるまち
政策	4	自然と共生する環境にやさしい社会の形成
施策	2	循環型社会の形成
取組方針	2	廃棄物の適正処理、適正管理

事業種別	継続	
事業期間	～	
事業実施の根拠法令		
関連個別計画		
担当課・担当課長 (Tel)	収集センター	山本 潤 (471-1503)
関連課		

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務		法定受託事務	
	その他			
会計・予算区分	会計			
	款		衛生費	
	項		清掃費	
	目		塵芥処理事業費	
	大事業		塵芥処理事業	
事項		特別依頼収集事業		

1 事業概要及び実施内容

事業概要	事業目的 (「誰・何」をどういう状態にする) ための事業か) 家庭で不要となった粗大ごみの受付常務及び動物死体処理等の業務を行うことにより、廃棄物行政を円滑に行う。	事業内容 (1)粗大ごみの受付業務 (2)犬猫等死体収集の受付及び処理 (3)学校牛乳パックの回収 (4)市の各施設の事業系ごみの回収 (5)不法投棄の回収				
	実施内容	平成26年度 (1)粗大収集の受付 (2)犬猫等死体収集の受付及び処理 (3)学校牛乳パックの回収 (4)学校粗大の回収 (5)不法投棄の回収	平成27年度 (1)粗大収集の受付 (2)犬猫等死体収集の受付及び処理 (3)学校牛乳パックの回収 (4)学校粗大の回収 (5)不法投棄の回収	平成28年度 (1)粗大収集の受付 (2)犬猫等死体収集の受付及び処理 (3)学校牛乳パックの回収 (4)市の各施設の事業系ごみの回収 (5)不法投棄の回収	平成29年度 (1)粗大収集の受付 (2)犬猫等死体収集の受付及び処理 (3)学校牛乳パックの回収 (4)市の各施設の事業系ごみの回収 (5)不法投棄の回収	平成30年度 (1)粗大収集の受付 (2)犬猫等死体収集の受付及び処理 (3)学校牛乳パックの回収 (4)市の各施設の事業系ごみの回収 (5)不法投棄の回収

2 事業コスト

事業費等 (千円)	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	7,397	6,849	17,938	13,006	22,920	22,315	25,145		25,145	
伸び率 (%)	-	-	142.5%	89.9%	27.8%	71.6%	9.7%	▲100.0%	0.0%	-
人件費	正規職員	110,474	101,696	110,474	96,019	110,474	69,225	67,743		
	正規職員以外	26,007	31,959	26,007	32,149	26,007	32,708	31,323		
小計	136,481	133,655	136,481	128,168	136,481	101,933	99,066			
国庫支出金										
県支出金										
市債			5,200	4,000						
その他	1,664	1,429	1,618	1,427	1,513	1,435	1,458		1,458	
一般財源 (税等)	5,733	5,420	11,120	7,579	21,407	20,880	23,687		23,687	
所要人数 (人)	正規職員	14.54	13.67	14.54	12.91	14.54	9.31	9.11		
	正規職員以外	12.34	14.67	12.34	15.57	12.34	15.06	14.35		
主な予算内訳	自動車用燃料2,126千円、自動車修繕2,164千円、機械等保守委託4,599千円、自動車借上料836千円									

3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
			目標値	実績値	達成度 (%)	目標値	実績値
成果指標	粗大ごみ等受付件数	件	目標値	50,000	50,000	50,000	50,000
			実績値	53,116	51,455	47,617	
			達成度 (%)				
			目標値				
			実績値				
			達成度 (%)				

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か		現行の手段でよい	○	一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している(90%以上)	○	おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持			○	
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	粗大ごみ受付業務については、受付4名体制で維持しており、今後の事業を進めるためには、より効率的な改善を実施するなど一部見直しを行うことが妥当と考えます。
見直し・改善内容	環境問題の意識が高まる中で、粗大受付業務の事務量の増加に伴い、人員の確保、健康管理、休暇の取得等を考慮しなければならぬと考えています。